

今年度で44回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今回も優秀な作品が数多く寄せられ、28点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童・生徒の皆さんを紹介します。また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。
※コンクールの審査対象は小学校3年生以上。

第44回 児童生徒 読書感想文 コンクール



■小学校3年生の部 最優秀賞 木のぼり広場のために 弟子屈小学校 丸山 乃愛さん

私がなぜ、ルルとララのフレンチトーストをえらんだかというと、ルルとララの作ったフレンチトーストのかざりつけがかわいかったからです。

この本は、ルルとララが主人公です。この本は動物たちが毎日あそびにくる木のぼり広場が台風でこわれてしまっただけで、かなしむ森の動物たちのためにルルとララはフレンチトーストを作ったよ。こぼせようとしますが、パンにおおいをかけずにおいていたので、パンはかわいいてしまいました。でも、牛乳にひたすともどおりになったという物語です。

一番心にのこった場面は、ルルとララが作ったフレンチトーストを森の動物たちがおいしそうに食べる場面です。理由は、木のぼり広場がこわれたかなしみもきえて、うれしそうだったからです。感動した場面は、森の動物たちとルルとララで、新しい広場を作っている場面です。理由は、新しい広場を作ろうとがんばっているからです。

読み終わった後の感想は、ルルとララがきょう力して、森の動物たちをたすけていたので、わたしもこまっっている人がいたら、きょう力してたすけてあげたいです。二つ目の感想は、森の動物たちで、新しい広場を作るゆうきをもたせたのがルルとララなので、わたしもルルとララのように、人をたすけ、ゆうきをもた

せられるような、やさしい人になりたいです。これからもたくさん本を読んで、いろいろなことを学びたいです。

(書名)「ルルとララのフレンチトースト」
あんびる やすこ/作・絵

(寸評) 小学校3年生が書いたとは思えないくらい、全体の構成がバランスよく、とても素晴らしい感想文でした。本を読んだきっかけ、あらすじを内容濃く、しかしすっきりとまとめ、この本の良かった場面を明確な理由を持って述べています。そして、その本を自己の生活にどう生かすかも考えられており、「読書」というものの本質をよく捉えている感想文になっています。これからもたくさん本を読み、さまざまな発見をしてほしいと感じました。

■小学校4年生の部 最優秀賞 犬と人間の命のリレー 弟子屈小学校 大庭 美冬さん

私が「目をふさがれた犬じゅんべい」を読書感想文に書くことになったきっかけは、この本を読んでみて、言葉にしている言えないけど、なぜか悲しくてなぜかうれしくて不思議な気持ちになったからです。ですので、この気持ちを他の人にも感じてもらえたらいいなと思います。この本を読書感想文に書くことにしました。

ある公園に子犬が捨てられていて、マイケルさんと言うアメリカの人に拾われ

小学校の部 6年生

参加数 47点

▶最優秀賞/大村 紫苑さん (川湯小)

▶優秀賞 佐々木 心優さん(弟子屈小) 田中 彩瞳さん(弟子屈小)

選んだ本 わたし、獣医になります!

小学校の部 5年生

参加数 46点

▶最優秀賞/浜崎 乃々葉さん (弟子屈小)

▶優秀賞 三田村 悠音君(弟子屈小)

選んだ本 告白予行演習 初恋の絵本

小学校の部 4年生

参加数 55点

▶最優秀賞/大庭 美冬さん (弟子屈小)

▶優秀賞 江畑 光晟君(弟子屈小) 瀬戸 豊君(奥春別小)

選んだ本 瞬間接着剤で目をふさがれた犬純平

小学校の部 3年生

参加数 29点

▶最優秀賞/丸山 乃愛さん (弟子屈小)

▶優秀賞 武田 紗依さん(弟子屈小) 在津 咲幸さん(和琴小) 橋田 和さん(美留和小)

選んだ本 ルルとララのフレンチトースト

高等学校の部

参加数 67点

▶最優秀賞/村上 栞音さん (弟子屈高2年)

▶優秀賞 佐々木 愛さん(第高1年) 田中 椿君(第高2年) 鈴木 あかりさん(第高2年)

選んだ本 また、同じ夢を見ていた

中学校の部 3年生

参加数 58点

▶最優秀賞/宮下 優心さん (弟子屈中)

▶優秀賞 青木 華央さん(弟子屈中) 宮田 響夏さん(弟子屈中) 田本 亜樹斗君(川湯中)

選んだ本 むかえびと

中学校の部 2年生

参加数 43点

▶最優秀賞/宮田 奏海さん (弟子屈中)

▶優秀賞 吉田 千和さん(弟子屈中) 金川 真子さん(弟子屈中) 神田 幸成君(川湯中)

選んだ本 余命10年

中学校の部 1年生

参加数 49点

▶最優秀賞/田澤 沙月さん (弟子屈中)

▶優秀賞 田中 佳恋さん(弟子屈中) 青木 聡一君(弟子屈中) 弟子 杏那さん(川湯中)

選んだ本 ひまわりと子犬の7日間

れました。マイケルさんは、初め目が閉じているのを、「きつとかせをひいて目やにで目が開けられなくなってしまうのだ。」と思っていたのですが、実はそれは瞬間接着剤だったのです。

瞬間接着剤がまふただけでなく、いたずらのように体中についていて、それをとってもらうために、病院に行ったのです。まふたの皮がはがれても、じゅんべいはがんばってあきらめずに最後までがまんしていたので、すごいと思いました。

私は、動物にこのようないたずらをするのが、いいことなのか、同じように命を持って生まれてきた人以外の動物に時には、私達のこわれかけた心をすくってくれる動物に、なぜそのようなことができるのかわかりません。

私の家では、犬を飼っています。その犬はもう年ですが、やんちゃでひとつひとつ犬です。私達家族は、その犬をまるで本当の子供のようにかわいがっています。

家の犬の事はしっかりとじゅんべいのような幸せな犬に最後まで育てていきたいです。

私は、この本を読んで、自分がかつていた犬なのに、捨てるなんてかわいそう、心がないと思ひ、人間じゃないみたいと思ひました。そして、このことを今も大人になってからも絶対にしたくないと思ひました。人が心に傷を負った犬に愛情を注ぎ、

その犬が心に傷を負った人に希望を与えている、それを私はこの本から学びました。

(書名)「瞬間接着剤で目をふさがれた犬純平」 関朝之/作

(寸評) この本に登場する犬「じゅんべい」への、心ない行動に対して感じた怒りや悲しみを、素直な言葉で訴えかけていた大庭さん。自分が飼っている犬への想いを重ねあわせ、動物の命を大切にしていきたいという強い意志が、感想文を通して伝わってきました。

この本で学んだ、犬と人間の繋がりを感じながら、これからも温かい心で動物に接してくださいね。



※そのほかの最優秀作品については、来月以降順次紹介していきます。